きらり下之郷

No.3
令和2年(2020)
7月15日

先祖から受け継いだ美田を守り、
時代の変化に対応できる
強い農業の創造と開発を目指す

目　　次

P1　水稲春作業／小麦刈取作業

P2　トマトの出荷販売／大豆の播種作業

P3　きらり下之郷からのお知らせ

春の田植え作業

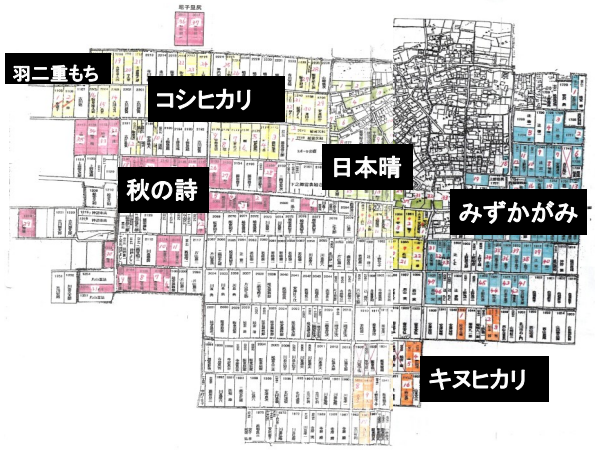
新型コロナウイルスの感染拡大で、緊急事態宣言が出され、日常の活動が停滞、自粛を余儀なくされる中にあって、農作業は、例年どおり、着々と作業を進めることができました。

3月初めから育苗ハウスの準備を進め、4月3日から稚苗の入荷、育苗作業が開始されました。

一方、圃場についても、3月初めから、畦塗り、水口や尻水戸の点検・補修作業が行われ、4月中旬から砕土・代かきと進み、そして、4月26日から、みずかがみの田植えが始まりました。

今年の水稲の作付けは、右図のとおりです。

令和2年産米の作付け



作業途中では、田植機の経年劣化によるトラブルも発生しましたが、当初予定通りの5月18日、飼料米の植え付けをもって無事終了することができました。

今後は、オフシーズン中の機械のメンテナンスを確実に行い、よりスムーズな作業になるよう改善していきます。

令和2年度　水稲	
品種	作付面積
みずかがみ	1, 167. 6a
コシヒカリ	1, 004. 2a
キヌヒカリ	410. 2a
日本晴	444. 6a
秋の詩	971. 5a
羽二重もち	51. 9a
計	**4, 050. 0a**
飼料米	611. 5a
合計	**4, 661. 5a**

小麦刈り取り作業

今年度の小麦の刈り取り作業は、6月5日から始まりました。梅雨入り前の晴天続きの中、三台のコンバインがフル稼働して、一気に刈り取りが進み、実働5日間で300反あまりの小麦圃場の刈り取りを完了しました。

下表は、今年度の収穫状況の記録です。今年度は晴天のおかげで、小麦の水分量も大幅に少ないことを考えれば、乾燥後の収穫量は、昨年度に比べて増収になるでしょう。暖冬で推移したことに加え、施肥量を増やした成果が出たと分析しています。

令和2年度　小麦収穫集計表				
収穫日	耕作面積 (a)	収穫重量計 (kg)	10a当り (kg/10a)	水分 (%)
6月5日	596.1	25,886	434	13.7～19.7
6月6日	735.3	31,260	425	13.1～16.9
6月7日	772.8	29,282	379	11.4～16.5
6月8日	666.5	27,214	408	10.1～14.5
6月9日	142.8	6,070	425	11.2～14.0
合計	**2,913.5**	**119,712**	**411**	
令和1年度	**2,869.1**	**117,450**	**409**	15.1～27.8

大豆播種作業

小麦収穫作業が終わると同時に、その圃場への大豆播種作業が始まります。

今年度はオオツル(85.1a)、タマホマレ(828.9a)、早生黒(1164.2a)、フジクロ(187.5a)、フクユタカ(724.4a)を作付けします。

大豆は、よく乾いた圃場に播種しないと発芽率が低下するため、梅雨時の播種作業は大変です。梅雨の晴れ間をねらって、耕起・播種・除草剤散布までの一連の作業を手際よく進めなければなりません。今年は、作業開始予定の時に大雨が降り、スタートは出遅れましたが、機械のトラブルも無く、作業連携もスムーズに行われ、予定通りの作付けを完了することができました。

耕起

播種

除草剤散布

好評！きらりのトマト

今年度、栽培土を全て入れ替え、経年劣化していた設備面での不良箇所も修理し、心機一転でのトマト栽培が始まりました。

3月14日に苗を植え付けて以来、芽欠き・誘引・摘果等の作業が丁寧に進められ、5月30日から収穫作業も始まりました。

当初は、一部のトマトにホウ素不足による未熟がありましたが、適切な対応でその問題も解消し、現在は「キラリのトマトはおいしい」と評判で、道の駅などに出荷する以前に区内で完売してしまうという日もあるほどです。

「医者いらず」といわれるトマトは、低カロリーでさまざまな栄養成分が豊富な健康野菜。美肌効果や風邪予防に役立つビタミンC、老化を抑制するビタミンE、塩分の排出を助けるカリウム、腸内環境を整える食物繊維などをバランス良く含んでいます。

更に注目されているのが、リコピン。私たちは酸素がなければ生きていけませんが、酸素には細胞を酸化させ、老化や動脈硬化、がんなどの生活習慣病を引き起こす作用があります。リコピンの抗酸化作用は強力で、ビタミンEの1000倍ともいわれています。

令和2年産米販売について

令和2年産米の販売については、7月中旬に全戸配布文書でご案内いたしますので、ご希望の方はお申し込み下さい。

在庫を置かないという方針で、販売については秋の収穫時のみとさせていただいております。年間の必要量をこの機会にお求め下さい。

お米の紹介

みずかがみ

平成25年秋、新しいお米のブランドがデビューしました。その名は「みずかがみ」。滋賀県が開発した新しいお米です。

これまでの調査結果では、「コシヒカリ」と同等以上の味で、おいしいお米として期待されています。

みずかがみは、温暖化対応品種として育成されました。高温に強く、猛暑の年でも品質が安定しています。

2019年産米の食味ランキングで、滋賀県産みずかがみは、最高位の「特A」に認定されています。

秋の詩

秋の詩（うた）は、コシヒカリと吟おうみを交配し、平成10年に滋賀県で育成され、県内だけで生産されているお米です。お米本来の甘みと粘りがあって、コシヒカリよりもややあっさりした味わいだから、どんなおかずとも相性がいいのが特徴です。「粒が大きめできれいなので食べごたえがあるし、冷めてもおいしいので、お弁当やおにぎりにもいいですね。」とのこと。

農機具老朽化問題

今年の春作業では、使っているコンバイン・田植機の故障が相次ぎました。いずれも使用限度を遥かに超えていることが原因で生じたものです。本年度は整備して使う予定の豆刈取用コンバインも、使用限度を遥かに超える実働時間数１５１２時間という状況です。

今後、計画的に機械の更新を図る必要があり、現在入札等について検討を進めています。

トラクターやコンバインを動かしてみたい、という人には大型特殊の免許取得の支援もさせていただきます。

時間の都合がつく範囲の軽労働なら、という方にもやっていただける仕事があります。

よく知った村の仲間と一緒に気持ちのいい汗を流しませんか？

今年、新たに作業スタッフに加わって活躍いただいている方が何人もおられます。ぜひ、その一員に加わっていただけるとうれしいです。

【お断り】

2月の定期総会で、今年度の活動予定として「納涼祭」をあげておりましたが、新型コロナウイルスの問題が収まっていない状況であり、「三密」を避けるため、開催を中止させていただきます。ご了承ください。